

部会名 男女平等部会  
政策提言

## 国際協力分野における男女平等

現状と問題点 日本では、国際協力に消極的になりつつあり、全体的な国際協力のためのODAの縮小傾向や、その中でも女性に対する課題への貢献が十分なされないことが危惧される。

### 具体的な内容

国際協力分野でのジェンダー平等について、具体的な行動と効果、期間、投資金額を明記すること。

国際協力分野でのジェンダー平等についてジェンダー予算分析を取り入れること。

すべての国際協力分野においてジェンダー平等の視点から具体的な援助の効果を検証すること。

国際協力分野でのジェンダー平等について、国連の新ジェンダー平等機関に対する積極的支援、とりわけ財政的支援を積極的に実施すること。

国際協力分野でのジェンダー平等について、国内外のNGOと定期的に建設的な対話の場を設定すること。

国際協力分野において、ミレニアム開発目標5妊産婦の健康改善を重点分野とすること。

リプロダクティブ・ヘルスサービスへの普遍的アクセスを含む妊産婦の健康改善分野において積極的な財政拠出をすること。

国際協力分野において、家族計画および安全な中絶サービスを積極的に推進すること。

国際協力分野、とりわけ保健分野において人権と公正を基本原則とすること。

### 期待される効果等

国際協力において、男女平等およびリプロダクティブ・ヘルス/ライツの分野を推進することは、日本が国際的責任を果たし名譽ある地位を占めることができる。短期的には効果が見えにくいが、適切な投資をすれば中長期的には大きな効果が現れる分野である。

### 必要な予算額・条件等(単位:百万円)

外務省がこれまで、中期目標としてジェンダーと開発、保健と開発に関するイニシアチブとともに2005年に発表してきたが、さらにこれを改善し、資金と人材の裏づけを伴って具体化する必要がある。

NPO等の女性の人権やリプロダクティブ・ライツの専門者を育成し、活用する。

政策提言の責任者[所属団体・役職・氏名] [メールアドレス] [allies@crux.ocn.ne.jp](mailto:allies@crux.ocn.ne.jp)  
スペーすアライズ事務局長 鈴木ふみ [電話番号] 047-376-6556